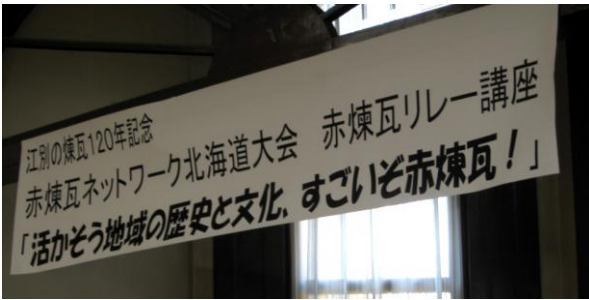


■ NEWS 02

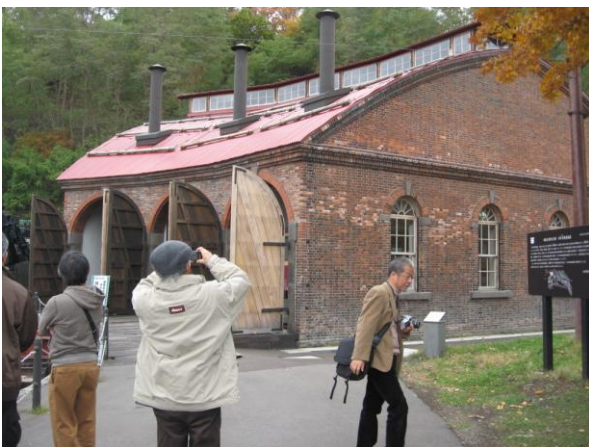
赤煉瓦ネットワーク全国大会(北海道)



▲旧北海道庁舎（会場）



▲交流会会場（サッポロビール園）



▲手宮機関車館

11月、季節はずれの台風をやり過ごし、いざ北海道札幌へ出発！赤煉瓦倶楽部半田からは私と名畑氏の2名での参加、最小人数での参加ではありましたが、全国大会では、半田をアピールするため、名畑さんとあらかじめ打ち合わせておいた赤煉瓦倶楽部半田の法被と前掛けを着て臨みました。会場内の参加者は我々の格好に戸惑い気味いったい何がはじまるやら？と、そんなことにも動じず、これが倶楽部の制服です！と一言。最近の赤レンガ建物状況を紹介しました。サッポロビール園では、カプトビールとの関係を説明し、陶器グラスなど倶楽部のグッズの競売会で盛り上がりました。会場には、地元郷土を愛する会、自称「江別ばかの会」代表者Nさんとお酒を酌み交わした。みな郷土を愛し、歴史を守っておられる方でその最高者が「〇〇ばか」といわれているのです。私たちもいずれ「半田ばか、カプトばか」と呼ばれるようになるかもしれないですね。

2日目は、小樽市内散策。今回の目玉は「旧手宮機関車庫」1885年(明治18年)。現存する国重要文化財の機関車庫でした。平成17年に耐震診断が行われ、翌18年より国庫補助事業により保存修理工事が開始平成21年に完成した。改修工事期間、建物の膨大な資料収集ができ現在も分析中のものが多いといます。学芸員の石神氏による地道な研究成果の発表がありました。北海道開拓時代にタイムスリップしたような気になり貴重な施設を見学できてよかったです。

見学会では、レンガ博士で有名な水野先生にもお話しすることができました。先生には、半田の赤レンガ半田建物の調査にも多大なるお力をいただき、現在残っている建物分析資料を残していただいた方です。

小樽市は街全体が観光地です。半田市にも小樽市と同じ運河があり、古い建物がいっぱいあります。行政と市民が一体になって盛り上げていきましょう。

歴史的財産を残しつつ、全国からの観光客を集めるため工夫をしてもっと半田市の魅力を発信していきたいと想っています。
(小林記)



■ NEWS 03

平成 21 年度総会

本年度総会では、メイン事業の第 9 回特別公開「明治と昭和をつないだトロッコ列車展」、「蔵のまち ひな祭り」、全国大会参加、イルミネーション点灯、他数々の事業や収支決算が報告され、続いて第 10 回目を迎える特別公開の節目の年として考慮された事業計画案及び予算案が無事原案通り可決されました。その後は、参加者全員で生カブトビールを囲んで、赤レンガ建物談議に花を咲かせました。

今年は、いよいよ半田赤レンガ建物の将来を見据えた、建物整備計画を一部具体化実施として「見学ルート予備整備」と「ハーフトィンバー壁面採光通風窓及び避難扉設置等の工事」が着工されます。このことは、赤煉瓦倶楽部半田にとってカブトビール復刻以来の大きなチャンス的一年でもあります。私たちは皆さんと力を合わせて、将来の本格活用をしっかりと議論し、その実現を見据えた適切な事業を進めていきたいと思っております。

(平岡記)

■ NEWS 04

七夕生カブトビールフェスタ

7月3日・4日にカブトビールフェスティバルが行われました。今年は、7月中旬の総会とは切りはなして、七夕一般公開としました。例年の様に、知多麦酒さんの施設をお借りして陶器グラスの洗浄をさせていただき、当日は中埜酒造さんに冷却用の氷をご提供いただくなど、沢山の皆様のご協力を頂き、今年も開催する事が出来ました。

今年の企画としては、七夕飾りを建物の内外に飾り、そして、赤たすき赤前掛けを復活させ、夏の風情を感じさせる爽やかな企画となりました。毎回、ビールフェスティバルを楽しみにお見えになるお客様も増えて、一つの企画として年間行事の一角として確立していけそうです。

反省として、7月初旬ではまだ、真夏の暑さが感じられないので7月中旬から8月中旬の、キーンと冷たいカブトビールが美味しい季節に開催した方が良いのではとの意見が有りました。ご来場のお客様が毎年この日を楽しみにして頂けるような素敵な企画にしていきたいですね。(新海記)

■ NEWS 05

童話の村秋まつり

童話の村秋まつり～彼岸花とごんぎつねのふるさと半田～が平成 22 年 9 月 18 日（土）～10 月 3 日（日）まで開催され、秋まつりにあわせて半田赤レンガ建物一般公開として 9 月 18 日（土）、19 日（日）、23 日（木祝）、25 日（土）、26 日（日）の 5 日間建物内部を公開しました。そのうちの 23 日、25 日、26 日は鉄道会社主催のハイキングのコースとなっていました。期間中、建物の案内には愛知淑徳大学河辺ゼミの大学生が 5 名参加し、マニュアル片手に熱心にガイドをしていただきました。悪天候にも見舞われ、またハイキングは彼岸花の開花が遅れて参加者が少な目でありましたが、ま

